



1st. くわはら たいが



4th. いわた ふうき



5th. きしもと ゆうせい



6th. なか しょう



7th. いわし なおき



8th. きしもと りゅうた



9th. よしおか こうき



10th. としかわ ゆい



2nd. なかにし ゅうた



3rd. はしもと せい

11. つじた ひかる
12. まつもと かおる
13. はしもと ひかる
14. おおいしりひと
15. ひらな こうのすけ
16. なりた あらた
17. なんば たかあき
18. うみの なな
19. きくち えいと
20. えのう こうが
21. ふじた はやた
22. みやさか けいすけ
23. かわむら いさみ
24. かねだ やまと

富山ラウンド第7戦ではアッサリと優勝を決め、翌日第8戦でも第2位、そしてステージを変えてこの神戸ラウンド第9戦に挑んできたくわはらたいが選手 (FIRSTKIDS IZU) である。9月が誕生月となるたいが選手にとって、これが4歳クラスのラストランとなる。是非とも優勝を手土産に、次のステップに進みたいところである。優勝候補の本命と見て良いだろう。

たいが選手の絶対的対抗として挙げられるのが、なかにしゆうた選手 (イナズマビッグストーンズ) の名だ。富山ラウンドの第7戦、8戦で共に3位表彰台に昇っている実力者。そろそろ優勝を狙っている気配である。また、はしもとせい選手 (TEAM RIVER) にも注目。いつでも優勝を狙えるだけの実力を持ちながら、未だその女神に遭遇していないので、彼もまた優勝の二文字には熱い思い入れがある。

やはりスタートダッシュを決めたのは、①番グリッドからスタートしたくわはらたいが選手である。そのたいが選手と競うように、③番グリッドのなかにしゆうた選手も飛び出していた。また、⑦番グリッドのいわたふうき選手、アウト側の⑩番グリッドからきしもとゆうせい選手 (BRAVE RIDERS) もトップラインに並ぶ。

スタートダッシュも、第1コーナーにかかるころにはその優劣が決まってくる。ゆうた選手と競っていたダッシュ力も、たいが選手が1バイク差をつけて勝負はあった。

そしてコースは最初の難関であるダウンヒルのテクニカルコースへと突入していく。トップで丘を駆け降

りていったのは、くわはらたいが選手である。そして最後までダッシュ力で競り合ったなかにしゆうた選手が2番手で続く。

ここで不思議だったのは、②番グリッドからのスタートダッシュで明らかに遅れをとったはずのはしもとせい選手が、なんと3番手で続いていたのである。インコースの利を活かしたのだろうが、これを「せいヤマジック」と呼んでみよう。

テクニカルコースをクリアし、先頭で丘を駆け昇ってきたのはたいが選手である。そしてその影に隠れるように、ピタリとテール・ツー・ノーズで追撃していたのはゆうた選手だった。スキあらばいつでも抜いてやる、といった気迫が全身に滾(たぎ)っている。凄まじいプレッシャーをたいが選手にかけていたのである。

その気迫を、堂々と受けて立っていかくわはらたいが選手も、大した精神力の持ち主である。神戸ラウンド名物のテクニカルコース「うさ耳コーナー」に入ってから決して慌てることなく、むしろ淡々と力強いキック力を大地に伝えていくのだった。

青竹のような強いバネが自分にあることを信じ、如何なる圧力がかかってきても物事に動じることのない姿を保つことができる。こうしたことを体験してつかみ取った勝利こそ、人としての真の強さとして磨き上げていくのかもしれない。

もしかするとその差だったかもしれない。れば、そんなことを若き戦士たちに教えて4歳クラス決勝のレースだった。



1st. く に た て わ く



4th. ながお はるか



5th. ふくおか りゅうたろう



6th. みやた ゆう



7th. しんたに かんすけ



8th. きむら しょうた



9th. どうかわ りゅうた



10th. やました かなた



2nd. すずき そうた



3rd. ふせりひと

11. おがた やまと
12. かみむら たける
13. にしうち ゆうま
14. かとう すばる
15. みわ はるま
16. むらかみ うた
17. よしもと かいと
18. かさや なおはる
19. きたの ひなた
20. たかみ りひと
21. つじた しゅん
22. たにやま あいと
23. よしやま みなと
24. いべ あおと

く に た て わ く 選手 (フリー) の連勝を誰がとめるかが、第9戦の見どころである。今年に入って2位が1回、3位が3回と優勝に恵まれなかったわく選手だったが、富山ラウンドでの第7、8戦で獅子眼を覚ましたかのように、突如、ブッチギリの強さで連勝。その勢いのまま、この神戸ラウンドに乗り込んでいる。

予選から調子の良かったふくおかりゅうたろう選手、予選から調子の良かったふくおかりゅうたろう選手、すずきそうた選手 (THRAPPY)、ふせりひと選手、ながおはるか選手 (TEAM RIVER) たちが、決勝でどこまでく に た て わ く 選手を追い詰めるのかに注目。

大本命のく に た て わ く 選手は、③番グリッドからのスタートとなる。そのわく選手を取り囲むように、ながおはるか選手は①番グリッド、すずきそうた選手が②番グリッド、そしてふせりひと選手選手が④番グリッドでスタートラインに並ぶ。また、もうひとりの優勝候補と目されているふくおかりゅうたろう選手は、アウト側⑩番グリッドからのスタートだ。

しかし、第1コーナーにおいて、最も速くそこを駆け抜けたのは、やはりわく選手だった。2番手にそうた選手、3番手にはりひと選手、そしてアウト側からりゅうたろう選手がほぼ並走状態でクリアしていく。

また①番グリッドのながおはるか選手 (TEAM RIVER) も、インベタの利点を活かせる好位置についている。このトップグループは、それぞれに勝利の方程式をイメージしながら、ダウンヒルのテクニカル

コースに臨んでいった。丘の頂上に戻ったとき、わく選手と2番手のすずきそうた選手の差は約5〜6バイクに開いていた。わく選手の描いた勝利への方程式は、この時点で99%の回答を示しているようだった。

矢のような速さで第2テクニカルゾーンの「うさ耳コーナー」へ突入したトップのわく選手は、2番手のそうた選手をまったく寄せ付けるところなくM字のコーナーをスラロームしていく。その走りはまるでウィングランのように、威風堂々としたものだった。

結局、終わってみればく に た て わ く 選手のぶっちぎりの優勝だった。第7、8戦に続き、これで3連勝である。第2位はすずきそうた選手、第3位にふせりひと選手が入り、表彰台に昇った。

2位のそうた選手は次の第10戦が誕生月となるので、5歳クラスのラストランとなる。その最終戦に総ての力を振りしぼって、有終の美を飾って欲しい。

有終の美と言えば、ここで非常に驚くべき情報がR.C.S専属のプロカメラマン・秋葉智之氏よりもたらされた。

「く に た て わ く 選手は最終戦で引退する、という話を漏れ聞きました。だから残る4戦を完全勝利し、有終の美を飾ろうとしているのかもしれませんが」。

R.C.Sの輝ける星が卒業してしまうのは寂しいが、最後まで栄光の足跡を刻み続けて欲しい。